

# 灘区医療介護サポートセンター便り



2026年(令和8年)10月 第14号

発行 灘区医療介護サポートセンター

住所 灘区水道筋1丁目24 灘区医師会館内 電話 078-801-1120 FAX 078-801-1121

秋の気配が少しずつ深まってまいりました。



朝夕の涼しさに季節の移ろいを感じる頃となりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

医療と介護の連携に関すること、どこに相談すればよいかわからなくて困っていることなど、気軽にサポートセンターまでご相談ください。

「サポートセンター便り」では、医療・介護・福祉職の皆さまの連携に役立つ情報や研修会等の活動報告を発信してまいります。

## 医療介護サポートセンターについて

「医療介護サポートセンター」は、神戸市内の各区の医師会内に設置されています。地域の医療・介護関係者の連携をサポートすることで、安心して暮らせる地域づくりを目指しています。

＝具体的な機能と役割＝

### ●在宅医療に関する相談窓口

医療、介護の関係者からの在宅医療に関する相談に対して、コーディネーターが必要な情報提供や支援・調整を行います。

### ●地域の在宅医療・介護資源の把握

地域ごとに、在宅医療に取り組む病院、診療所、歯科診療所、薬局、訪問看護ステーション、介護施設などの情報を収集し、関係者間の連携・調整に活用します。

### ●多職種連携の推進(多職種連携会議の開催、医療・介護関係者への研修)

地域の医療・介護関係者の連携を推進するため、お互いの業務の現状を知り、顔が見える関係づくりを目的とした、多職種連携会議を開催します。また、医療・介護等の専門職を対象とした、在宅医療・介護に関する研修会を開催します。

### ●地域住民への普及啓発

市民を対象に、在宅医療・介護への理解を深めることを目的とした講演会などを開催します。

お気軽にご相談ください

### 【ご相談について】

医療介護サポートセンターは、医療・介護関係者からの在宅医療に関する相談に対応しています。  
(市民からの介護に関する相談は、あんしんすこやかセンターをご案内ください。)



## 相談対応から

### 【外来リハビリが可能な整形外科クリニックについて】

40代、女性、右足関節骨折術後

4月に受傷、急性期病院で手術後、相談者の病院の地域包括ケア病棟に入院中。

退院後、灘区に転居予定なので、近くのリハビリ可能な整形外科を教えてください。

対応➡転居地から近い2か所の整形外科クリニックの情報を提供しました。



### 【眼科往診について】

70代、男性、要介護5 糖尿病や脳出血後後遺症のある方。

A病院から訪問診療を受けている。緑内障で眼圧の検査や点眼薬処方のために、B病院の眼科に介護タクシーで通院していた。介護タクシー事業者から、今後は介助困難で送迎が難しいと言われたため、往診可能な眼科を探している。

対応➡1)訪問診療を受けているA病院主治医に相談する。

2)B病院の眼科にも診療情報提供してもらうため相談し、往診の眼科の紹介を依頼する。

往診可能な眼科の情報が欲しいとのことで、複数の医療機関を紹介し、詳細は問い合わせさせていただきようお伝えしました。

### 【介護タクシー事業者について】

ご自宅はエレベーターのない3階

脱水症状で体力低下を起こしているため、明日の決められた時間に他区の病院に入院となったが、歩けなくなっている。

介護タクシーの情報をおしえてほしい。

対応➡相談可能な介護タクシー事業者の情報を複数提供しました。

### 令和8年度 灘区病院と在宅との交流研修会

#### 『地域みんなで取り組む入退院支援～患者・利用者の生活の質を高めるために～』

この研修会は「支援者間の顔の見える関係づくり」「病院と在宅のそれぞれの職種の役割や患者の望む退院後の生活を同じ視点で支援できること」「連携や介入のタイミングを共に考えることで明日からの支援に活かせること」を目的に企画をしています。

日 時： 令和8年7月2日(木) 18:00～20:00 場 所： 灘区文化センター5階 大会議室

参加者： 94名

内 容： <第1部>ショートトーク

- 1)「退院前カンファレンスやサービス担当者会議に出たことはありますか？」  
灘区医師会 岡田クリニック 院長 岡田 司郎氏
- 2)「病院薬剤師の役割 — 調剤からチーム医療まで」  
神戸赤十字病院 薬剤課長 池井 健氏
- 3)「在宅現場からみる在宅訪問薬剤師の役割」  
灘薬剤師会 なぎさ薬局 管理薬剤師 大塚 美智氏
- 4)「患者を支える継続的な歯科との連携」  
灘区歯科医師会 まつお六甲歯科クリニック 院長 松尾 健司氏

<第2部>事例：脳梗塞を発症し緊急入院となった磯野舟さんのケース

- 1)グループワーク(事例検討) 12グループ
- 2)グループ発表 「こんな連携・介入ができる」「目からうろこ」「新しい視点」



#### ショートトークから

- ・退院前カンファレンスやサービス担当者会議を有意義なものにするには、できるだけ多くの職種に参加してもらう。患者・利用者さんの医療・介護上の問題点を洗い出す。必要かつ利用可能なサービスの検討。急変時の対応や ACP など話題に。
- ・病院薬剤師は、入院前から退院後までシームレスな薬物治療を提供している。施設間薬剤情報提供書とは、各施設(病院・診療所・薬局)の薬剤師が患者情報を共有する目的で使用され、主に、転院する方、施設に戻る方、退院時に薬剤が変更になった方などを対象に作成している。
- ・退院前カンファレンスにおいて薬局薬剤師が参加するメリットは、服薬上の問題を事前に発見できること。退院後ではなく退院前に対策できる。退院後の生活環境は病院と大きく異なるので、患者さんの生活環境を踏まえた提案ができる。「病院と在宅をつなぐ」退院後も継続して関わることができる職種。
- ・入院されると歯科介入が後回しになり歯科治療が止まりやすい。歯の痛み・入れ歯が合わない・食事が摂れない、などの問題に病院に歯科が設置されていなくても、入院中の患者さんへ在宅歯科が介入できる。気軽にご相談いただきたい。



#### グループワークから

事例を基にしたグループワーク後には、「こんな連携・介入ができる」「目からうろこ」「新しい視点」などを発表いただきました。

- ・退院前カンファレンスとサービス担当者会議が大事なポイントになる。様々な職種が退院前カンファレンスに参加することで、本人の退院後の生活像を共有し、多角的に把握し、制度的なことや医療と介護のサービス利用などについてしっかり話し合うことで、必要な支援につなげることができるのではないかと。
- ・訪問看護特別指示書で手厚く医療的な視点が入っている間に、追加のアセスメントを実施することができるという話は目からうろこだった。
- ・特に緊急で入院した場合など、本人や家族は混乱していると思われるので、病棟看護師などと病状や今後の方向性を話し合うことが大切。
- ・タイミングをとらえて、家族の介護力もみながら生活環境を整えるなど、病院側と在宅側が協力して調整していくことが大切。などの意見が出ました。

#### まとめ

退院前カンファレンスや情報提供において、歯科や在宅薬剤師の関わりが十分ではない点が課題として挙がりました。医師やケアマネジャーからは、歯科医師との連携の重要性について触れられました。さらに歯科医師・歯科衛生士の役割が広範囲に及ぶことへの気づきも得られました。患者(利用者)さんの望む退院後の生活を、病院と在宅が同じ視点で支援するために、それぞれの職種の役割を知り、有効な連携方法や協力のあり方について多職種で様々な意見を出し合い、顔の見える関係をすすめ、共有する機会となりました。

交流会には多くの方にご参加をいただきありがとうございました。みなさまの関心の高さとそれぞれの役割に対する熱意がうかがえました。継続して開催することで、患者・利用者のめざす姿をイメージしやすく、目標達成に向けて多職種でどのように連携・協力していくのかを掘り下げて一緒に考え、顔の見える関係をすすめることができればと考えています。

今後も多職種が地域を超えて楽しく顔の見える関係・連携の強化を図れるよう努めてまいります。ぜひご参加ください！



## 第 25 回さくら塾 ～多職種連携研修会～

### 「灘区のめざす姿～各職種・職種間の連携で取り組みを進めよう～」

#### <急変時の対応の場面から>

さくら塾は、在宅医療・介護にかかわる多職種が連携して取り組める体制づくりを進めるため、講義・事例・グループワークなどを通して、在宅での各専門職の関わりや役割について考える場として、毎年定期的に開催しています。

日 時:令和 8 年 9 月 5 日(土)14:00～16:30 場 所:灘区文化センター5階大会議室 参加者:66 名

主 催:灘区在宅ケア推進会、灘区医療介護サポートセンター

研修目標: ①「灘区のめざす姿」急変時の対応の場面の課題と対応策を皆で共有する ②「わたしができること」を考える

内 容: 第 1 部 <活動報告と共有> 「みんなで考えよう!住み続けたいまち・灘」 急変時の対応の場面  
灘区医療介護サポートセンター コーディネーター



第 2 部 <講演> 講演 1)「こんな時、あなたはどうしますか？」  
灘消防署 救急係長 山中 亮人 氏

講演 2)「在宅における急変とは」  
灘区医師会理事 田村医院 院長 田村 竜二 氏

第 3 部 <グループワーク>

- 1) 「わたしができること」を考えてみよう
- 2) 共有・それぞれの職種が協働できることを考えてみよう

<全体共有グループ発表>



#### 突然起こるアクシデント!!

- ・119 番通報は・・・固定電話でかけると場所が特定できるので、訪問先で 119 番通報する時は、固定電話でかけた方がよい。スマートフォンは GPS 機能で場所がわかるが、市街地であれば、誤差は数m～200m、遠隔地(山や電波が届きにくいところ)では、誤差は半径 1Km にも及ぶため、位置の特定が難しいことがある。
- ・KobeLIVE119 とは・・・スマートフォンから 119 番通報時に、現場の状況を動画で通報できる映像伝送システム。通報者と通信指令員の間で、リアルタイムに映像通話ができ、現場からの動画送信だけでなく、指令センターから処置方法の動画が送られることもある。(胸骨圧迫、鼻血の止血、異物の除去方法など)。映像送信には通報者側に通信料金がかかる。弱点は、酔っ払いの人も CPA(心肺機能停止)状態に見えてしまうこと。

#### 講演から

##### 在宅における急変とは

- ・『患者の状態が急に変わること』『死に至る可能性のある状況の変化』  
急変対応は「何か変」「いつもと違う気がする」と気づくことから始まる。そのためには、普段の会話や行動を通して[普段を知る]ことで、その患者・利用者の正常な状態を理解しておくことが重要。
- ・「予期された急変」か「予期されていない急変」か  
1) 異変に早く気づく(顔色、意識、呼吸の仕方 etc.) 2) 安全確保と観察を行う 3) 誰に、どの情報を、いつ伝えるかを理解している。
- ・迷ったら報告・相談・救急要請 そして、医療職との連携が利用者の安全を守る。



#### <グループ発表から>

- ・職種によっては、患者・利用者の情報が少ない、届いていないということがある。
- ・サービス担当者会議で情報の更新や、「急変時の時はどう対応する」「看取りの意思表示」などの合意形成を行うのが理想。また、その情報を支援チームで共有するということがとても重要。
- ・日頃から、患者・利用者の細かい変化も支援者間で共有できる関係づくり。
- ・主治医と事前に「起こりうる急変」や「病状の変化」などを共有しておく。意思決定支援にもつながる。

#### <まとめ>

参加者された方々からは、今回の開催も、多職種が集まり意見交換ができる、顔の見える関係づくりができる有意義な機会だというご意見を多くいただきました。

- ①支援チーム間での情報共有の重要性(情報は更新していく)、②急変時対応の場面では、どのように対応をするのかを事前共有しておくことが鍵であること、③あんしんシートの更新・置き場所・活用のばらつきが課題であるが、共通のツールとして活用をすすめること、④サービス担当者会議が、ご本人や家族、専門職間の情報共有と関係構築の中心であること、⑤急変時の対応では、複数の連絡手段・連絡先が必要であること、⑥地域の多様な支援者との連携強化も大切であること
- など、今後の業務や支援の場で活かせる取り組みや気づきが得られました。

日々の業務の中で、それぞれが意識して取り組んでいくことで、めざす姿に近づいていきます。  
さくら塾は今後も様々なテーマで開催していきます。ぜひ みなさまご参加ください!!



## 今後開催の専門職向け研修会・市民公開講座のご案内

### <医療・介護・福祉関係者向け研修会>

#### 『災害時の対策・対応研修会 ～災害初動のシミュレーションから、使える連携・対応策を皆でともに考えてみませんか！～』

日時:10月17日(土) 14:00～16:00

場所:灘区文化センター 5階大会議室 定員:80名

近年、日本各地で大規模災害が発生しています。

灘区では、在宅療養者への支援ができる限り途切れることがないよう、今後起こりうる災害に備え、行政や関係機関の発災時の動きや取り組みを知り、災害時の対応や対策について意識を高め、平時から関係機関や同業種、他業種間の連携方法や対応策を考える研修会を継続して開催しています。



**災害時の対策・対応研修会**

災害初動のシミュレーションから、使える連携・対応策を皆でともに考えてみませんか！

日時: 2026年 10月17日(土) 14:00～16:00 (受付開始 13:45～)

場所: 灘区文化センター 5階大会議室 (灘区東田町4丁目1番39号メインホールA・B・C・D・E)

定員: 80名 (事前申し込み・先着順)

内容: 訪問系サービスの状況時シミュレーション・グループワーク

申込URL: <https://forms.gle/dnKwvASDyWwLd>

お申込み: 申込締切: 10月13日(水)

今回は、訪問系サービスのリアルなシミュレーションを通して具体的に発災時の初動、行動を体感してみます。そこから見てくる“うまくいった点”と“うまくいかなかった点”をもとに、実際に使える対策・対応・連携方法を考えます。自分の身を守り、災害対策・対応に強い灘区を目指してともに考えてみませんか。事業所のBCPのブラッシュアップにも役立ててください。

### <医療・介護・福祉関係者向け研修会>

#### 『～安心して働ける医療・介護現場づくりに向けて～カスタマー・ペイシェントハラスメント対策・対応研修会』

日時:10月29日(木) 14:00～16:30

場所:灘区文化センター 5階大会議室 定員:80名

正当な要望との見極めや初期対応のポイントを共有し、トラブルを未然に防ぐことにつなげます。



**カスタマー・ペイシェントハラスメント対策・対応研修会**

安心して働ける医療・介護現場づくりに向けて

ハラスメントへの理解を深め、現場から適切な対応方法を学び、医療で不当な苦情や苦情の発生に備える。職場での苦情や苦情の発生に備える。苦情の発生に備える。苦情の発生に備える。

プログラム1: 基礎 講師: 三浦 健一 弁護士

プログラム2: 事例を基にグループワーク

プログラム3: 自身の経験や事例を基にグループワーク

日時: 2026年 10月29日(木) 14:00～16:30 (受付開始 13:45～)

場所: 灘区文化センター 5階大会議室 (灘区東田町4丁目1番39号メインホールA・B・C・D・E)

定員: 80名 (事前申し込み・先着順)

申込URL: <https://forms.gle/dnKwvASDyWwLd>

お申込み: 申込締切: 10月26日(月)

### <市民公開講座> 第27回灘区民健康特別講座

#### 『いつでも夢を・いつまでも夢を～認知症とともに～』

第1部:基調講演

演者 石田重廣氏(夢グループ代表)・橋真由美氏(橋幸夫氏夫人)

第2部:シンポジウム

日時:11月28日(土) 14:00～16:00 (開場 13:00～)

場所:灘区民ホール 5階大ホール 定員:510名 入場無料 申し込み不要



**第27回 灘区民健康特別講座**

いつでも夢を・いつまでも夢を～認知症とともに～

2026年 11月28日(土) 14:00～16:30 (13:00開場)

会場: 灘区民ホール 5階大ホール (〒645-8511 灘区東田町4丁目1番39号)

14:15～15:00 基調講演 “歌い続けてみつけた最期の輝き”～認知症介護と在宅ケア、人生の最期について～

15:15～16:00 シンポジウム “認知症になっても自分らしく”

入場無料 申し込み不要

### <医療・介護・福祉関係者向け研修会> 『第18回灘区認知症医療連携勉強会』

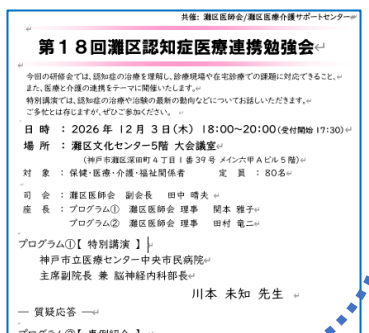
日時:12月3日(木) 18:00～20:00

場所:灘区文化センター 5階大会議室 定員:80名

第1部 特別講演: 講師 神戸市立医療センター中央市民病院

主席副院長兼脳神経内科部長 川本 未知 先生

認知症診療への理解を深め、患者・利用者・家族を取り巻く医療と介護の多職種連携の事例を通して支援に役立つ気づきやヒントを持ち帰っていただける学びの場となれば幸いです。



**第18回灘区認知症医療連携勉強会**

今回の研修会では、認知症の診療を深め、診療現場や在宅診療での課題に対応できるように、また、医療と介護の連携をテーマに開催いたします。

特別講演では、認知症の診療や認知症の患者のケアについてお話しいただきます。ご多忙とは存じますが、ぜひご参加ください。

日時: 2026年 12月3日(木) 18:00～20:00 (受付開始 17:30)

場所: 灘区文化センター5階 大会議室 (神戸市灘区東田町4丁目1番39号 メインホールA・B・C・D・E)

対象: 医療・介護・福祉関係者 定員: 80名

会 社: 灘区医師会 副会長 田中 晴夫 氏

座 長: プログラム① 灘区医師会 理事 関本 雅子 氏

プログラム② 灘区医師会 理事 田村 竜二 氏

プログラムの【特別講演】

神戸市立医療センター中央市民病院

主席副院長 兼 脳神経内科部長 川本 未知 先生

一 質疑応答 二 プログラム③ 灘区医師会 氏

【編集後記】秋の風が少しずつ心地よくなり、中秋の名月が静かに夜空を照らす季節になりました。澄んだ空気の中に浮かぶ満月は、どこか懐かしさを呼び起こします。

季節の変わり目は、患者さん・利用者さんだけでなく、支援に携わる私たちにも緩やかな影響が出やすい時期です。

温かい飲み物を一杯、深呼吸をひとつ。そんな小さな休息をおきながら、ゆっくりと季節の移ろいを感じられる余裕を持てたらと思います。

### 医療介護サポートセンター ホームページのご案内

医療介護サポートセンターのホームページでは、各区サポートセンターの紹介やお知らせ、市民講座、研修案内、活動報告などご覧いただくことができます。ぜひ、ご活用ください。

URL:<https://kobe-iks.net>



### 灘区医療介護サポートセンターのページ

URL:<https://kobe-iks.net/area/nada>

二次元コードはこちら

